

# 企業・団体の皆さまからの さまざまなサポート方法



子どもを誰ひとり  
取り残さない

セーブ・ザ・チルドレンが運営する「こどもひろば」で遊ぶイエメンの子どもたち

© Aji Ashwal/Save the Children

SDGs(持続可能な開発目標)の合意、環境・社会・企業統治を評価項目として重視するESG投資の拡大など、ビジネス取り巻く環境は大きく変化しています。

持続可能ですべての子ども権利が実現された社会を目指し、「できること」「小さなこと」から私たちと一緒に取り組んでください。

## 企業・団体の皆さまからのさまざまなサポート方法

支援方法	支援メニュー	実施企業例 (敬称略・順不同)
<p>企業として行う支援</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>収益の一部を寄付</li> <li>商品・サービスの売上に連動した寄付</li> <li>プロボノ・現物支給</li> <li>技術を活かした協同事業の実施</li> <li>セーブ・ザ・チルドレンのロゴを利用したプロモーション活動</li> </ul>	<p>損害保険ジャパン日本興亜株式会社 ソニー株式会社 ブルガリ ジャパン株式会社 株式会社アクセア サラヤ株式会社</p>
<p>お客様・株主と一緒に 行う支援</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様向けの商品へのDM同梱・E-DM配信</li> <li>ポイント寄付・株主優待への追加</li> <li>SNS・マスメディアでセーブ・ザ・チルドレンの活動を紹介</li> <li>募金箱・パンフレット設置(店舗・店頭)</li> <li>街頭キャンペーン実施場所の提供</li> </ul>	<p>株式会社ファミリーマート デルタ航空 トートバッグ専門ブランド ROOTOTE バンダイナムコグループ</p>
<p>従業員と 一緒に 行う支援</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員寄付</li> <li>マッチングギフト</li> <li>募金箱設置(社内)</li> <li>社内イベントの収益寄付</li> </ul>	<p>グラクソ・スミスクライン株式会社 株式会社日立柏レイソル</p>

## 連携事例



グラクソ・スミスクライン株式会社(GSK)  
従業員と一緒に  
行う支援

社員有志によるセーブ・ザ・チルドレンとのパートナーシップ推進チームによって、社員参加型のさまざまなイベントが行われています。これまでに、セーブ・ザ・チルドレンとのパートナーシップを紹介する展示や講演、チャリティグッズの販売などを実施いただきました。また、セーブ・ザ・チルドレンのスタッフによる「子どものための心理的応急処置」の講演を社内でも実施。緊急下の子どもへのケアを多くの社員の方々が学びました。



## 連携企業 ご担当者の声



株式会社日立柏レイソル  
運営部部长 河原 正明 様



子どもたちを大切に  
プロサッカークラブとして。

### 「強く、愛されるクラブ」をつくる

プロサッカークラブである柏レイソルの使命は、「強く、愛されるクラブ」をつくることです。そのための大きな要素の一つとして、子どもを大切にするという思いがあります。柏レイソルは、プロ選手だけでは成り立ちません。子どもたちを将来の選手として育成すること、また、地域の子どもの関わりを通して、子どもを大切にしようという考えがクラブに根付いています。

### 子どもとの向き合い方を考える機会を

2011年、柏レイソルはJ1リーグで優勝しました。当初は、その賞金を社会に還元しようと、セーブ・ザ・チルドレンへの支援を始めました。2012年にベトナムでの教育支援を開始し、2015年からは国内の子ども虐待の予防活動を支援しています。その一環として、セーブ・ザ・チルドレンと「たたかない、怒鳴らない子育て」の講座を、地域の方や、子どもを指導するコーチへ行っており、とても好評です。サッカーの指導だけでなく、子どもとの向き合い方を考える機会を提供しているのは、柏レイソルらしい斬新な活動だと思います。



### 活動を広く伝えるために

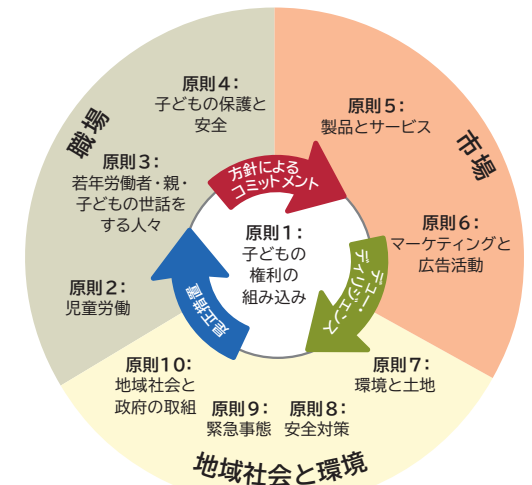
チャリティマッチでは、選手の等身大パネルなどを通して「たたかない、怒鳴らない子育て」のメッセージを伝え、多くの方が楽しみながら参加してくれました。これからも柏レイソルを通して、より多くの方たちにセーブ・ザ・チルドレンの活動を知ってほしいと考えています。



## 「子どもの権利とビジネス原則」の実践

子どもは守られるべき対象であり、消費者であり、未来の従業員でもあります。「子どもの権利とビジネス原則」は、バリューチェーンにおいてビジネスがいかに子どもに影響を及ぼし、またどのように子どもの健全な成長と発達を促せるのかを示したガイドラインです。「子どもの権利とビジネス原則」を実践することにより、積極的にビジネスにおける潜在的リスクを回避し、ビジネスの持続的発展に貢献することができます。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでは、企業の皆様へ子どもとビジネスの関わりについて考える機会を提供しています。また、個別にご相談も受け付けていますので、お気軽にお問い合わせください。



## ご寄付は、法人税の控除を受けることができます

法人からセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付は、一定の要件下で一般の寄付金の損金算入限度額に加え、特別損金算入限度額まで損金に算入することができます。

一般の寄付金の損金算入限度	$(\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 0.25\% + \text{所得の金額} \times 2.5\%) \div 4$
上記に加えて、限度内で損金算入が可能	$(\text{資本金等の額} \times \text{当期の月数} / 12 \times 0.375\% + \text{所得の金額} \times 6.25\%) \div 2$



**Save the Children**

**【お問い合わせ】**

**公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 法人連携担当**

TEL： 東京本部 03-6859-0010（平日9:30~18:00）

大阪事務所 06-6232-7000（平日9:00~17:00）

[japan.corporatepartner@savethechildren.org](mailto:japan.corporatepartner@savethechildren.org)

<http://www.savechildren.or.jp/partnership/>



セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際NGOです。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年にわたり活動しています。